

[第3学年及び第4学年]目標(「学びに向かう力、人間性等」の単元目標)
(1)日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。
(2)筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをまとめることができるようにする。
(3)言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。
「学習内容」…△知識・技能 ◇話すこと・聞くこと ■書くこと □読むこと

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ 学習内容 ★ここが大事／☆学習用語	領域	時	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
1学期	4月	2 (話す聞く2)	つたえたいことを、はっきりさせよう じこしょうかいビンゴゲーム 教科書:P8 ◇「じこしょうかいビンゴゲーム」をもとに、互いの共通点や相違点に着目しながら興味をもって話したり聞いたりする。 ☆学習用語:伝える／自己紹介／カード／発表	話聞	1	〈見通しをもとう〉 1. 教材名とリード文を読み、学習の見通しをもつ。 (1)「じこしょうかいビンゴゲーム」を通して、互いを知り合うという学習の見通しをもって、学習計画を立てる。 ＊ビンゴカードの見本を提示するとよい。 2. 友達の知りたいことや自分の伝えたいことを考える。 ＊板書して、ビンゴカードを書くときの参考にさせる。 3. ビンゴカードを書く。 (1)好きなものや得意なことをカードのまずに書く。 ＊短い言葉で書くこと、四隅のまずに書く項目は、自分で考えるか2で考えた項目から選んで書くことを伝える。 4. カードを使って、ビンゴゲームをする。 (1)グループで、カードに書いたことを一人一まずずつ発表し合い、同じ場合は丸を付ける。列がそろったら「ビンゴ」と言う。 ＊P9の「ビンゴゲームのあそび方」を確認する。 ＊全員が発表したら、グループを変えてビンゴゲームを続けることを確認する。 (2)カードをもとに友達と話す。 ＊共通点を中心に交流させるとともに、相違点を取り上げて話し合わせる。 5. 感想を発表する。 ＊共通点や、交流できたことを中心に感想を考えさせる。	【知識・技能】 ◎相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。((1)イ) 【思考・判断・表現】 ◎「話すこと・聞くこと」において、目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。(A(1)ア) 【言語活動例】 ・質問するなどして情報を集めたり、それらを発表したりする活動。(A(2)イ) 【態度】 ・すすんで日常生活の中から話題を決め、学習の見通しをもって、「じこしょうかいビンゴゲーム」で紹介し合おうとしている。
					2	6. まずに書く項目を見直して、ビンゴカードを書く。 7. カードを使って、ビンゴゲームをする。 ＊まずに書いた項目が同じ場合なら、その答えが違っていても、丸を付けてよいことを伝える。 ＊書いた理由を伝え合わせる。 〈ふり返ろう〉 8. 学習を振り返る。 (1)学習全体を振り返り、感想を確かめる。 ＊自己紹介をし合った内容について、おもしろかったことやなるほどと思ったことを発表させ、学級で感想や評価を共有させる。	
1学期	4月	2	楽しく声に出して読もう かえるのびょん 教科書:P10 □言葉との新鮮な出会いをとおして、そのリズムや響きを味わい、音読を楽しむ。	読む	1	1. 学習の見通しをもつ。 2. 教師の範読を聞いてから、一人読み、一斉音読をする。 ＊「かあさん」「とうさん」「じどうしゃ」「しんかんせん」「ひこうき」「おひさま」をどのように跳び越えたのかを想像しながら、「びょん」の読み方を工夫して音読する。 ＊各行の音数がそろっていることに気づかせるために、音読しながら手をたたく活動を取り入れて、音の数に意識がいくようにするとよい。 ＊「びょん」が跳び越える対象が、物理的に大きくなっていき、四連では「きょう」「あした」と抽象化されていくところが、現実にはありえないできごととして示されている。 それが「びょん」の回数に対応していることに気づかせる。 ＊どのように「とびこえ」たのか、「とびこえ」ている姿や様子などをイメージできるように、動作化を取り入れてよいことを知らせる。	【知識・技能】 ◎文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。((1)ク) 【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(C(1)エ) 【言語活動例】 ・詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。(C(2)イ) 【態度】 ・すすんで登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し、学習課題にそって工夫して音読しようとしている。
					2	3. グループに分かれ、読み方を工夫して音読するという本時の目標を確かめる。 ＊目線を工夫したり、「びょん」の動作やせりふなどを考えてグループで演じながら音読させたりする。 4. 次々と跳び越えていくかえるの様子を想像しながら、グループで音読する。 ＊「きょう」を飛び越えて、「あしたのほうへ」きえる、というイメージの動作化は難しいので、授業の最後に「どんなことを感じたか」と問い、イメージを共有する時間を取るとよい。 5. グループごとに工夫した音読を発表する。 6. 学習を振り返る。	

1学期	4月	9 (書く2)	ー 登場人物の行動をとらえて、お話の気に入ったところを見つけよう 白い花びら 教科書:P14 □登場人物の行動を思い浮かべながら読み、物語の気に入ったところを見つける。 ★ここが大事:登場人物の行動や気持ちをとらえる ☆学習用語:文／漢字／主人公／作家／物語／場面／登場人物／性格／したこと／比べる／気持ち／発表／言葉／理由／説明／様子／移り変わり／お話	読む	1 〈見通しをもとう〉 1. 単元扉を見て、学習の見通しをもつ。 * 登場人物の行動を捉えて読み、お話の気に入ったところを見つけて紹介し合うという学習の見通しをもたせる。	【知識・技能】 ◎主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。(1)カ) 【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えている。(C(1)イ) ○「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(C(1)エ) 【言語活動例】 ・詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。(B(2)ウ) ・詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。(C(2)イ)
					2・3 〈たしかめよう〉 2. 登場人物を確認し、作品の全体像を捉える。 (1) 登場人物の人数や場面の数を確かめ、できごとの全体を捉える。 (2) 女の子に対するゆうたの気持ちが、はじめと終わりでどのように変わっているかを考え、発表する。 * 登場人物の言ったりししていることをもとにして、行動や気持ちを捉えるようにさせる。 * 女の子が登場する場面の様子や会話文の内容を手がかりに考えさせる。	
					4～7 〈くわしくよう〉 3. 登場人物の行動の理由と気持ちを捉え、登場人物の性格について考える。 (1) ゆうたとかずきは、どのような性格の人物か、したことや話したことを比べて読み、違いを見つける。 * ゆうたとかずきは会話や行動が対称的であるため、比較することでそれぞれの性格を想像しやすくする。同じ物事に對して二人が異なる対応をした場面を取り上げる。 (2) 女の子について、不思議だと思うところを見つけてノートにまとめ、紹介し合う。 * 女の子が登場する場面の様子や会話文の内容を手がかりに考えさせる。	
					8・9 〈まとめよう〉 4. 物語の中で気に入ったところを書く。 * なぜその部分が気に入ったのか、叙述をもとに捉えたことから理由を説明させる。 〈つたえあおう〉 5. 気に入ったところについて、その理由とともに伝え合う。 〈ふり返ろう〉 6. 学習を振り返る。 (1) 登場人物の行動や気持ちについて考えるときに気をつけたことを振り返る。 (2) 物語の中で気に入ったところを伝え合って感じたことを振り返る。	
1学期	5月	3 (書く3)	毎日の生活の中での「発見」を書きためよう 「発見ノート」 教科書:P32 ■毎日の生活の中での発見や不思議に思ったことなどを「発見ノート」に書く。 ☆学習用語:発見ノート／見出し／漢字／理由／話題	書く	1・2 1. P33の「発見ノート」を読み、具体的な書き方を確かめる。 2. 身のまわりで発見したことや不思議に思ったことについて、「発見ノート」に書く。 3. 書いた内容を確認し、一枚を完成させたら、同じ要領で複数枚を作る。 * 学級や子どもの実態に合わせ、題材を発見しに行く時間を設けてもよい。	【知識・技能】 ◎言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。(1)ア) 【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) ○「書くこと」において、書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けている。(B(1)オ)
					3 4. 友達とノートを交換し、お互いのノートを読み合って気づいたことや感想などを話し合う。 * 「いつ」「どこで」や「ふしぎに思ったこと」「調べてわかったこと」などがわかりやすく書けているか、「見出し」は話の内容をわかりやすく短い言葉で表し、読み手の興味をひく工夫をしているかなどを確認させる。 * それぞれの内容が項目ごとに書かれて、わかりやすくなっているかも確認させる。 5. どんな工夫をして、「発見ノート」を作ったか振り返る。 * 「発見ノート」作りは、このあとも続けていこうにしたい。このあとで学習する単元『クラスの「生き物ブック」』や、下巻の創作詩の教材『はっとしたことを詩に』、同じく下巻単元『強く心にのこっていることを』の話題・題材を選ぶ際に活用できるように設定している。自分の「発見ノート」を見返す楽しさを味わわせたい。	【言語活動例】 ・調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。(B(2)ア) 【態度】 ・積極的に経験したことから伝えたいことを明確にし、学習の見通しをもって「発見ノート」を作ろうとしている。
1学期	5月	2	言葉の広場① 国語辞典のつかい方 教科書:P34 △国語辞典の引き方を理解し、辞典を活用する。 ☆学習用語:動きを表す言葉／国語辞典／見出し語／様子を表す言葉／五十音順／清音／濁音／半濁音／会話／組み立て／構成／のばす音／促音／長音／拗音／説明／つめ／はしら	言語	1 1. 教材文を読んで、国語辞典を使うことのよさに気づく。 * 教材冒頭の会話文によって、日常の言語生活との関連を意識づける。 * 言葉の意味を知るには、国語辞典を活用するとよいことに気づかせ、国語辞典に興味をもたせる。 2. P35上段の会話例で話題となっている「あまい」について、教科書の解説を見ながら、実際に自分の国語辞典を使い、調べてみる。 3. 複数の意味がある中から、適切な意味を選ぶ活動をする。	【知識・技能】 ◎比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使っている。(2)イ) 【態度】 ・積極的に辞書や事典の使い方を理解し、学習課題にそって国語辞典を活用しようとしている。
					2 4. 国語辞典の使い方を理解する。 * 教材文の「れい」にそって清音、濁音、半濁音の順番に載っていることを確認させ、理解させる。また、長音、拗音の引き方も設問を追いながら確認していく。 * 実際に教師が国語辞典を使いながら児童と確認するようにする。辞典によって、並び方のきまりや記号の使われ方が異なることがあるので、自分の持っている辞典を確認し、使えるように指導する。 * 用言は、終止形で調べることを確認する。終止形がどのような形なのかわからないことがあるので一緒に確認する。 5. 設問に従って、国語辞典で言葉の意味を調べる。 * 一人一人が独力で調べられるようにする。 * 複数の意味がある場合、どの意味が適切なのか、文脈を読んで判断し、選べるように指導する。 * 知らない漢字や熟語に出会ったときには、辞典を活用することの便利さを意識できるように、辞典の使い方に慣れさせておくとい。	

1学期	5月	6 (話す聞く6)	ニ メモをくふうしようかいしよう わたしのたからもの 教科書:P38 ◇話の中心をはっきりさせたり、話す順序を考えたりして自分の宝物を紹介し、友達の意見や感想をもとによりよい構成を考え、発表する。 ★ここが大事:発表メモをもとに発表する ☆学習用語:発表メモ／発表／メモ／組み立て／感想／理由／意見／始め／中／終わり／順序／筋道／聞き手	話聞	1 〈見通しをもとう〉 1. 単元名とリード文をもとに、学習の計画を立てる。 (1) メモをもとに、自分の宝物をみんなに紹介するという学習めあてを確かめ、「学習のすすめ方」をもとに学習計画を立てる。 * 単なる紹介ではなく、スピーチの内容や話し方について友達とアドバイスし合い、よりよく伝えるための学習であることを理解させる。 2 〈きめよう・あつめよう〉 2. 自分が紹介したい宝物について、考えを広げる。 * イメージマップなどを活用し、考えを広げさせる。 3 〈組み立てよう〉 3. 伝えたいことが伝わるように、組み立てを考える。 (1) P39の森本さんが最初に考えたメモとスピーチを読んで、話の中心について話し合う。 (2) P40の森本さんが作り直したメモとスピーチを読み、改善された点について話し合う。 * 話の中心が何であるかを考えさせるようにする。 (3)発表メモを書く。 * メモは短い文で書かせるようにする。 4 (4)グループの中で練習をする。 * スピーチをよりよくするために互いに助言し合うというめあてをもたせ、聞き合うようにさせる。 * 話の中心が何であるかを考えながら、聞くことを伝える。 * 「大事な言い方」「ここが大事」を確認させる。 (5)意見や感想を伝え合い、メモを書き直す。 * 始め・中・終わりでどのようなことを話すかを、再度確かめさせる。 * グループでスピーチをしたり、意見や感想を述べ合ったりして、最初のメモを読み直し、中心や理由がさらにはっきりするよう見直しをさせる。 * メモには、違う色で書きたせると、わかりやすく評価もしやすい。 5・6 〈話そう・聞こう〉 4. 学級で発表する。 * 最初にP41の「ここが大事」を確認し、発表の際に意識させる。 〈つたえ合おう〉 5. 宝物を紹介した感想を伝え合う。 * 話す内容や話す順序について、感想を伝えさせる。 〈ふり返ろう〉 6. 学習を振り返る。 * できるようになったことや感想を交流させる。 * 全体で話したり聞いたりして、学習の自己評価をさせる。 * 聞き手に伝わる発表にするために、どんな組み立てを考えたかを振り返らせる。	【知識・技能】 ◎考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。((2)ア) 【思考・判断・表現】 ◎「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えている。(A(1)イ) ○「話すこと・聞くこと」において、話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫している。(A(1)ウ) 【言語活動例】 ・説明や報告など調べたことを話したり、それらを聞いたりする活動。(A(2)ア) 【態度】 ・粘り強く話の中心が明確になるように話の構成を考え、今までの学習を生かして、自分の宝物を紹介しようとしている。
1学期	5月	2	漢字の広場① 漢字学習ノート 教科書:P42 △新しく学ぶ漢字や既習の漢字を使って漢字学習ノートを作る。	漢字	1・2 1. 「漢字学習ノート」にまとめる手順を理解し、学習の見通しをもつ。 2. P42を参考にして、「動」など既習漢字の中の一文字について、読み方・意味・使い方などを調べ、短文を考えて「漢字学習ノート」に書き、まとめる。 * 国語のノートとは別に、漢字学習用として専用のノートを準備するとよい。 3. 「漢字学習ノート」に書いた使い方と短文をそれぞれ発表し合う。 4. 「集」など新出漢字について「漢字学習ノート」を作り、発表し合う。 * 言葉集め、短文作りでは、発表、話し合いの場面を十分にとる。	【知識・技能】 ◎前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。((1)エ) 【態度】 ・積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使い、学習の見通しをもって「漢字学習ノート」を作ろうとしている。
1学期	5月	2 (書く2)	二年生で学んだ漢字① 教科書:P44 △絵を見て想像したことをもとに、2年生で学んだ漢字などを使って文を書く。	漢字	3・4 5. P44の絵を見て、描かれている様子について説明する。 6. 「木の下で、おべんとうを食べている人がいます。」を参考にして絵の中の様子を文に書く。 7. 「木の下で、おべんとうを食べている人がいます。」の続きの文を書く。 8. 書いた文を見直し、適切な表現に変えたり、まちがいを正したりし、発表し合う。 9. 学習したことを振り返る。	【知識・技能】 ◎前学年や当該学年で配当されてる漢字を文や文章の中で使っている。((1)エ) 【思考・判断・表現】 ○「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) 【言語活動例】 ・詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。(B(2)ウ) 【態度】 ・積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題にそって、教科書の絵を説明する文を書こうとしている。

1学期	5月	2	三　だんらくに気をつけて、要点をまとめよう うめぼしのはたらき 教科書：P46 □段落の要点に気をつけて読み、わかったことや大事なことをまとめる。	読む	1 〈見通しをもとう〉 1. 本文を読み、問いと答えの関係を明らかにする。 (1)どんな疑問が書かれているのか、本文中から見つける。 (2)疑問に対する答えを探す。 (3)「よいはたらき」が書かれている段落を確認する。 (4)「よいはたらき」が書かれている段落において、「中心となる文」と「それを説明する文」に分ける。 ＊本文中の該当する部分に線を引き、どこに線を引いたのか確認するだけの授業にならないように、内容理解を丁寧に行う。	【知識・技能】 ◎主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。((1)カ) ○考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。((2)ア) 【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、段落相互の關係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との關係などについて、叙述を基に捉えている。(C(1)ア) ◎「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約している。(C(1)ウ) 【言語活動例】 ・記録や報告などの文章を読み、文章の一部を引用して、分かったことや考えたことを説明したり、意見を述べたりする活動。(C(2)ア) 【態度】 ・すすんで段落相互の關係を意識して本文を読んだり、本文中の大事な言葉に注目しながら読んだりして、学習課題にそって、段落ごとの要点をまとめようとしている。
1学期	6月	10 (書く2)	三　だんらくに気をつけて、要点をまとめよう めだか 教科書：P48 □段落の要点に気をつけて読み、わかったことや大事なことをまとめる。 ★ここが大事：だんらくの「要点」をつかむ ☆学習用語：段落／要点	読む	1 〈見通しをもとう〉 4. 『うめぼしのはたらき』で学習したことを生かして、『めだか』を読み、本文の大体をつかむ。 2 〈たしかめよう〉 5. 文章構成を明らかにして本文を読む。 (1)「始め」と「終わり」の部分を確認し、それぞれの役割を確認する。 (2)「中」の部分丁寧読み、二つのまとまりに分ける。 (3)「始め」「中」「終わり」の構成について整理し、役割をまとめる。 ＊児童の実態に応じて、教科書P54のように図式化して文章構成をまとめる。 3・4 〈くわしくよう〉 6. 「てきから身を守る方法」の部分丁寧読み取る。 (1)⑤～⑧段落の要点をまとめる。 (2)めだかの「てきから身を守る方法」をまとめる。 (3)要点のまとめ方を振り返る。 7. 「めだかの体のづくり」の部分丁寧読み取る。 (1)⑨～⑫段落の要点をまとめる。 (2)「めだかの体のづくり」をまとめる。 ＊教科書P54のような表をノートに書いてまとめさせると見やすくてよい。 5・6 〈まとめよう〉 8. 段落ごとの要点を整理して、わかったことをまとめる。 (1)「てきから身を守る方法」か「めだかの体のづくり」のどちらか一つを選んで、わかったことをまとめる。 (2)わかったことに加えて、感想も書く。 7・8 〈つたえあおう〉 9. 自分の考えを発表したり、友達の考えを聞いて共有したりする。 9・10 〈ふり返ろう〉 10. 学習全体を振り返る。 (1)要点を捉えるとき、どのような言葉に気をつけたか発表する。 (2)友達の感想を読んで考えたことを発表する。 (3)『めだか』の学習で出会った言葉について振り返る。	【知識・技能】 ◎主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。((1)カ) 【思考・判断・表現】 ○「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の關係に注意したりして、文章の構成を考えている。(B(1)イ) ○「読むこと」において、段落相互の關係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との關係などについて、叙述を基に捉えている。(C(1)ア) ◎「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約している。(C(1)ウ) 【言語活動例】 ・調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。(B(2)ア) ・記録や報告などの文章を読み、文章の一部を引用して、分かったことや考えたことを説明したり、意見を述べたりする活動。(C(2)ア) 【態度】 ・すすんで段落相互の關係を意識して本文を読んだり、本文中の大事な言葉に注目しながら読んだりして、学習課題にそって、段落ごとの要点をまとめようとしている。
1学期	6月	3	読書の広場① 本をさがそう 教科書：P58 △図書館で本を探す方法を知り、本を探して読む。	読書	1 1. 図書館の本の分類を知り、分類記号を手がかりに本を探す。 (1)学習の見通しをもつ。 (2)図書館の本の分類の仕方、並べ方について知る。 ＊本は内容によって分類され、分類ごとに並べられていること、分類記号は本のラベルに書かれていることを確認する。 (3)P58の表と学校図書館のマップを見ながら本を探す。 2 2. 目次・索引、前書き・後書きが情報を探す手がかりになることを知る。 (1)調べたいことがあるとき、どのように本を探したらよいかについて話し合う。 (2)目次・索引の役割を知る。 ＊目次・索引を見れば、調べたいことが載っている本であるかの判断ができ、必要な情報を早く見つけられることに気づかせる。 (3)目次・索引を使って、図鑑を引く。 (4)前書き・後書きが本を探す時の手がかりになることを知る。 3 3. さまざまな手がかりをもとに、自分の目的の本を探して読む。 (1)奥付に書かれていることを知る。 ＊今後、出典を書く際に必要となるので、書名、著者名、出版社、発行年がわかるようにする。発行年を見ると、本に書かれている情報がいつのものかわかることにもふれる。 (2)自分の調べたいことが載っている本を探して、読む。 (3)読んでわかったことや考えたこと、書名、著者名、出版社、発行年をノートに書く。 (4)本のつくりを知る。	【知識・技能】 ◎比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解使っている。((2)イ) ◎幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。((3)オ) 【思考・判断・表現】 ○「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約している。(C(1)ウ) 【言語活動例】 ・記録や報告などの文章を読み、文章の一部を引用して、分かったことや考えたことを説明したり、意見を述べたりする活動。(C(2)ア) ・学校図書館などを利用し、事典や図鑑などから情報を得て、分かったことなどをまとめて説明する活動。(C(2)ウ) 【態度】 ・すすんで本の分類や引用の仕方、出典の示し方などを理解し、学習課題にそって本を探そうとしている。

1学期	6月	10 (書く10)	四 図やしりょうを目的に合わせてえらぼう クラスの「生き物ブック」 教科書:P62 ■図や資料を使って、生き物の特徴を比べて書く。 ★ここが大事: 説明する文章を書く ☆学習用語: メモ／組み立て表／題名／意見／出典／図／文章／資料／横書きの文／読み返す／説明する／段落／理由／例／点(、)／コンマ(、)	書く	1	〈見通しをもとう〉 1. 「学習のすすめ方」を読んで、見通しをもつ。	【知識・技能】 ◎主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。(1)カ)
					2・3	〈きめよう・集めよう〉 2. 生き物を選び、調べる。 (1)調べたい生き物の特徴を探す。 * 理科で扱う「色・形・大きさ」の観点に着目させることで、合科的指導も可能である。 (2) 選んだ生き物と、比べてみたい生き物について調べ、メモに書く。 * 調べてわかったことをメモしたり、文章を引用したりした場合は、書名・筆者名などの必要な情報を奥付で確認し、必ず記録させる。	【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) ◎「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。(B(1)イ)
					4・5	〈組み立てよう〉 3. 組み立て表を作る。 (1)書いたメモを並べる。 * 組み立て表には、「調べたきっかけ」「調べたこと」「まとめ」のような項目を立てて書く。	【言語活動例】 ・調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。(B(2)ア)
					6・7	(2)組み立て表を読み合い、見直す。 * 内容として足りないと思う点や unnecessary 点などを伝え合って、修正させる。	【態度】 ・粘り強く文章の構成を考え、学習の見通しをもって説明する文章を書こうとしている。
					8・9	〈書こう〉 4. 組み立て表をもとに、文章を書く。 〈読み返そう〉 5. 文章を読み返す。 * 内容のまとまりごとに段落を作って書くことができるかを、必ず確認させる。	
					10	〈つたえ合おう〉 6. 友達と読み合う。 * よく書けている点について感想を伝えるとよい。比べている内容のわかりやすさや、記述の工夫などに着目させる。 〈ふり返ろう〉 7. 学習を振り返る。	
1学期	6月	2	漢字の広場② 漢字の音と訓 教科書:P68 △漢字の音と訓について理解する。 ☆学習用語: 音／訓	漢字	1	1. 「花」という字の読み方の違いを考え、漢字には、音と訓の読み方があることを知り、その違いを比べる。 2. P69上段の設問を読み、音と訓のどちらが使われているかを話し合う。 3. P152の「漢字を学ぼう」の表を使って、これまでに学んだ漢字の音と訓を確かめる。	【知識・技能】 ◎前学年や当該学年で担当されている漢字を文や文章の中で使っている。(1)エ)
					2	4. 「草原」(ソウゲン・くさはら)のように、同じ表記でありながら異なる読みをもつ語のそれぞれの読み方と意味を確かめ、語感の違いを話し合う。 5. 「カイジョウ」と読む同音語や、「かえる」と読む異字同訓の、それぞれの意味の違いを話し合い、国語辞典で意味を調べ、確認する。	【態度】 ・積極的に前学年や当該学年で担当されている漢字を文や文章の中で使い、学習課題にそって、漢字の「音」と「訓」について知り、正しく使おうとしている。
1学期	6月	2 (書く2)	二年生で学んだ漢字② 教科書:P70 △絵を見て想像したことをもとに、2年生で学んだ漢字などを使って文を書く。	漢字	3・4	6. 教科書の絵を見て、描かれている様子について説明する。 7. 「ぼくは、海で姉や妹と遊びました。夜は、星を見ました。」を参考にして、絵の中の様子を文に書く。 8. 絵の中の言葉を三つ以上使って、二文以上が続く文章を書く。 9. 書いた文章を見直し、適切な表現に変えたり、まちがいを正したりして、発表し合う。 10. 学習したことを振り返る。	【知識・技能】 ◎前学年や当該学年で担当されている漢字を文や文章の中で使っている。(1)エ) 【思考・判断・表現】 ○「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) 【言語活動例】 ・詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。(B(2)ウ) 【態度】 ・積極的に前学年や当該学年で担当されている漢字を使い、学習課題にそって、教科書の絵の中の言葉を使って文を書こうとしている。

1学期	7月	9 (書く2)	五 物語のせかいをそうぞうしよう 紙ひこうき、きみへ 教科書:P72 □登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わりや、物語に出てきたものと結びつけて想像する。 ★ここが大事:物語のせかいをそうぞうする ☆学習用語:登場人物／行動／会話	読む	1・2 〈見通しをもとう〉 1. 単元扉を読んで、学習の見通しをもつ。 (1)単元扉を読む。 (2)範読を聞き、登場人物や、場面ごとのできごとを捉え、感想をもつ。 3・4 〈たしかめよう〉 2. 登場人物について確かめる。 (1)キリリがどのような人物かわかるところに線を引き、交流する。 (2)ミークがどのような人物かわかるところに線を引き、交流する。 (3)キリリとミークがそれぞれどのような人物かまとめる。 5・6 〈くわしくよう〉 3. キリリの変化について詳しく読む。 *ミークとキリリの行動や会話文、気持ちを表す言葉、持ち物や道具などに注目させる。 (1)キリリの変化についてわかるところを見つけ、交流する。 (2)キリリとミークの違いについて、見つけたことを交流する。 *「リュックサック」と「古い旅行かばん」がもつイメージを出し合い、比べることで、身軽さや重たい感じなど、持ち物から考える手がかりとする。 *紙ひこうきとちようちたちが物語の中でどのように書かれているのか詳しく読み、キリリの気持ちの変化について考える。 7・8 〈まとめよう〉 4. 最後の場面の登場人物の気持ちを想像する。 *どうしてそのような気持ちだと想像したのか、理由を書いたり根拠となる言葉や文章を書き出したりする。 〈つたえあおう〉 5. 「まとめよう」で想像したことを伝え合う。 9 〈ふり返ろう〉 6. 「ここが大事」を確認し、「ふり返ろう」の観点にそって振り返りを行う。 (1)物語に出てきたものを比べて読みながら、どのような感想をもったか。 (2)登場人物の行動や気持ちを考えると、どのようなことに気がつけたか。	【知識・技能】 ◎様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。((1)オ) 【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(C(1)エ) 【言語活動例】 ・詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。(C(2)イ) 【態度】 ・登場人物の気持ちの変化や性格について、すすんで場面の移り変わりと結びつけて、今までの学習を生かして具体的に想像しようとしている。
1学期	7月	4	言葉の広場② ローマ字 教科書:P93 △ローマ字に興味をもち、ローマ字の書き方について理解し、読めるようにする。 ☆学習用語:のばす音／はねる音／つまる音／大文字／小文字／ローマ字／つづり	言語	1 1. 学習内容を理解し、ローマ字に興味をもつ。 *教材冒頭の会話文によって、日常の言語生活との関連を意識づける。 2 2. 日本語はローマ字でも表記できることを知り、母音と子音の意味を理解して、ローマ字で書かれた簡単な言葉を読む。 *身のまわりで使われているローマ字を探し、ローマ字で書かれたものを発表させる。 *最近では、英語での表記もあるので、混同しないように、発表の際には教師が気を配るようにする。 *英語との混同を避けるために、ローマ字は、日本語の発音をアルファベット表記したものであることをおさえる。 *ローマ字の表を使いながら、教科書に示されたローマ字を自分で読めるように支援する。 3. P91のローマ字で書かれた言葉を読み、母音と子音の組み合わせでローマ字が成り立っていることに気づく。 3 4. のばす音、はねる音、つまる音の仕組みと書き方を知る。 *自分で書くことにより、確認をする。 4 5. 大文字と小文字の使い分けを知る。 6. ローマ字のつづり方の違うものがあることを知る。 7. 自分の身のまわりにあるローマ字に目を向け、ローマ字を集めるなどして意識する。 *読み書きの基本を理解させ、自分の書きたい言葉を書けるように支援したい。 *ローマ字の表記の仕組みを理解させ、五十音表を活用して、探しながら書くなど慣れるようにしていくとよい。 8. 学習を振り返る。	【知識・技能】 ◎日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書いている。((1)ウ) 【態度】 ・すすんで、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で読んだり書いたりし、学習の見通しをもって、ローマ字に親しもうとしている。
1学期	7月	1	言葉の広場③ ローマ字とコンピューター 教科書:P95 △コンピューターにローマ字で入力をする際に大切なことを知り、コンピューターを活用する。 ☆学習用語:発音	言語	1 1. 学習内容を理解し、コンピューターでのローマ字入力に興味をもつ。 *日常生活におけるローマ字入力の機会や場面について話し合い、ローマ字とローマ字入力について意識づける。 2. P95の「ちゅういすること」を読み、ローマ字でコンピューターに入力したあとの文字変換の際の文字の選択・決定は、人が決める必要があることを理解する。 3. 入力の際に気をつけなければならない字について理解し、正しく打ち込めるようにする。 *P92のローマ字表を想起させ、ローマ字の規則性を確かめさせる。そのうえで、違う書き表し方をする文字に注意するよう促す。 4. P94の問題にある言葉を入力して、ローマ字の綴り方の確認をする。 *身のまわりのさまざまな言葉を入力させ、ローマ字入力の仕方に慣れさせてもよい。 *文字変換の方法に慣れさせるとともに、適切な漢字や語句の選定は自分で行わなければならないことを理解させる。 5. 学習を振り返る。	【知識・技能】 ◎日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書いている。((1)ウ) 【態度】 ・すすんで、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で読んだり書いたりし、学習の見通しをもってコンピューターにローマ字で入力しようとしている。

1学期	7月	1	読書の広場② ひろがる読書のせかい 教科書:P96 △「読書マップ」の作成や、「読書クイズ」をする活動を通して、幅広く読書に親しむ。	読書	1	1. 読書生活を振り返り、読みたい本を選んだり、これからの読書生活を考えたりする。 (1)読書生活を振り返る。 * 三年生になってから読んだ本について、冊数や本のジャンルに目を向けさせ、自分の読書傾向を把握させる。 * 心に残っている本を発表し合い、友達の読んでいる本に興味をもたせる。 (2)読んでみたい本を選ぶ。 * 学校図書館と連携し、掲載図書の実物や他のおすすめの本を用意する。教科書P140～143も活用できる。 * これまで読んでいないジャンルの本も選ぶように促す。 * 学校司書から本の紹介を聞くのもよい。 (3)読んでみたい本、その理由を発表する。 (4)夏休み中の読書について、目標をもつ。 * 冊数やページ数、読書時間等の目標を立てる。 * 読書後の活動例を紹介し、夏休みに取り組むことを勧める。	【知識・技能】 ◎幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。(③オ) 【思考・判断・表現】 ○「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。(C①カ) 【言語活動例】 ・詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。(C②イ) 【態度】 ・学習課題にそって読書生活を振り返り、すすんで読みたい本を選んだり、これからの読書生活を考えたりしようとしている。
2学期	9月	2 (話す聞く2)	大事なことを書きながら、話を聞こう 「りす公園」はどこにある？ 教科書:P98 ◇大事なことは何かを考えて、必要なことをメモに取ったり、質問したりしながら聞く。 ★ここが大事:メモを取りながら話を聞く ☆学習用語:メモ／中心／質問	話聞	1	〈見通しをもとう〉 1. 単元名とリード文を読み、学習の見通しをもつ。 2. メモを取りながら夏川さんの話を聞き、「りす公園」への道順を確認する。 * 教科書を見せずに、夏川さんの話を聞かせ、メモを取らせる活動してから、教科書の絵を見せる。 3. メモを見せ合い、メモの取り方について話し合う。 * 東野さんのメモや友達のメモと自分のメモを比較して、どんなメモがよいか考えさせる。 * P100「ここが大事」を確認し、メモを取るときに意識できるようにする。 4. 東野さんがなぜ質問をしたのかを話し合う。	【知識・技能】 ◎比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解使っている。(②イ) 【思考・判断・表現】 ◎「話すこと・聞くこと」において、必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもっている。(A①エ) 【言語活動例】 ・質問するなどして情報を集めたり、それらを発表したりする活動。(A②イ) 【態度】 ・すすんで必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、今までの学習を生かして公園の道順についてメモを取りながら聞いている。
					2	5. 「聞いて探そうクイズ」をする。 (1)道順の説明を聞いて場所をあてるクイズを考える。 * スタートとゴールを決めて、その道順の目印になる建物や方向を表す言葉を選び、メモに書かせる。 * 手がかりとなる場所の説明は、建物の色・形、看板、植木やペットなどの特徴など、視覚的な情報を入れるように工夫させる。 (2)「聞いて探そうクイズ」を出し合う。 * クイズの手順について説明する。 ・ 問題を出す人は、スタートと道順を説明してゴールはどこかを尋ねる。 ・ 答える人は、絵を見ずにメモを取りながら聞く。 ・ 聞き終わったら、メモを手がかりにして、質問しながら絵の中のゴールを答える。 〈ふり返ろう〉 6. 学習を振り返る。	

2学期	9月	10 (話す聞く2・書く8)	六 つたえたいことをはっきりさせて書こう 取材したことをほうこく文に 教科書:P102 ■取材をとおしてわかったことを、伝えたいことを明確にして報告文にまとめ、感謝やお誘いの手紙を添えて送る。 ★ここが大事:取材したことをまとめる ☆学習用語:取材メモ／取材する／取材／インタビュー／手紙／資料／箇条書き／質問／報告文／見出し／段落／読み返す／句点／句読点／読点／組み立て／言葉づかい／メモ	書く	1 〈見通しをもとう〉 1. 「学習のすすめ方」を読んで、見通しをもつ。 * 学級で冊子にまとめたり、発表会を行ったりするなど、教材末の活動の見通しをもたせる。	【知識・技能】 ◎丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書いている。(1)キ ◎考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。(2)ア
					2 〈きめよう・集めよう〉 2. 知りたいことをまとめ、取材する計画を立てる。 (1)「取材メモ」の例を読み、取材のときに注意することなどを出し合う。 * 「知りたいこと」「取材をしてわかったこと」「思ったこと・考えたこと」に分かれていることに気づかせ、その意義を捉える。	【思考・判断・表現】 ◎「話すこと・聞くこと」において、必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもっている。(A(1)エ) ◎「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。(B(1)イ)
					3 (2)P104・105の阿部さんの例文を欄外の注とともに読み、気づいたことなどを出し合う。	【言語活動例】 ・質問するなどして情報を集めたり、それらを発表したりする活動。(A(2)イ) ・調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。(B(2)ア)
					4 (3)P107を参考に、インタビューの仕方を理解し、計画を立てる。 * 誰に、どのようなことを聞くのかを想定させる。 * 役割分担をどのようにするのかを決める。 * グループあるいは二人で組みになって練習をさせる。 * 箇条書きで、一つ一つの事柄を短く整理して書き並べていくことを意識させる。	【態度】 ・粘り強く、書く内容の中心を明確にして文章の構成を考え、学習の見通しをもって報告文を書こうとしている。
					5・6 〈組み立てよう〉 3. 「取材メモ」の中から、書く内容を選ぶ。 (1)いちばん伝えたいことを中心に選び出す。 (2)「取材メモ」をもとに、文章の構成を考える。	
					7・8 〈書こう〉 4. 報告文を書く。 (1)書く前にもう一度教科書を読み、留意点を確認させる。 (2)教科書の例を参考に、見出しも考えさせる。	
					9 〈読み返そう〉 5. 報告文を読み返す。 * 書き上げた報告文を読み返して、必要なところは書き直して清書する。 * 読み返す時、P106にある三つの観点を一つずつおさえ、必要に応じて修正させる。 * 下書きが終わった者どうして相互に読み合わせ、よい点や書き直すべき点を伝え合う場を設定する。	
					10 〈つたえ合おう〉 6. 友達と読み合う。 * 発表会をしたり、学校外で取材した場合は、お礼も兼ねて報告文を届けたりしてもよい。 〈ふり返ろう〉 7. 伝えたいことをはっきりさせるために、どんな工夫をして、報告文を書いたか振り返る。	
2学期	9月	6 (書く6)	相手や目的に合わせて書こう 自分の気持ちを手紙に 教科書:P108 ■手紙の書き方を知り、目的に合わせた手紙を書く。 ☆学習用語:季節の言葉／気持ち／伝える／自己紹介／手紙／言葉／報告文／結びの挨拶／後付け／日付／話し合う	書く	1 〈見通しをもとう〉 1. 教材の学習の進め方を理解して見通しをもち、手紙を書くことに興味をもつ。 2. P108・109の阿部さんの手紙を読んで、お礼の手紙の書き方や書くときの工夫について考える。 * 阿部さんの手紙を読みながら、お礼の手紙の構成を確認する。 * P108・109の下段と対比しながら、構成を確認する。	【知識・技能】 ◎丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書いている。(1)キ 【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)
					2 3. 誰にどのようにお礼を伝えるのかを考えながら、手紙に書く事柄を決める。 * P145の巻末付録「横書きの手紙の書き方」もあわせて参照し、手紙には目的に応じて依頼の手紙やお礼の手紙などがあることを知る。 * 社会科の学習や総合的な学習の時間の活動など、学級の実態に合わせて、相手や目的を設定するとよい。	【言語活動例】 ・行事の案内やお礼の文章を書くなど、伝えたいことを手紙に書く活動。(B(2)イ)
					3 4. お礼の手紙の構成を考える。 * 季節の言葉は、自分で考えてみる。難しそうであれば、「手紙の書き方」などの類書から、教師のほうで児童の実態に合ったものをいくつか用意しておく。	【態度】 ・粘り強く相手や目的を意識した表現になっているかを確認、学習の見通しをもって目的に合わせた手紙を書こうとしている。
					4 5. 手紙の書き方を踏まえて、相手や目的に応じた手紙を書く。まちがいがなければ読み直す。	
					5 6. 下書きを読み合い、「はじめのあいさつ」「本文」に必要なことが書かれているかどうかを確認する。	
					6 〈ふり返ろう〉 7. 封筒を書く。 * 封筒の書き方は、P109の「ふうとうの書き方」と対比しながら、大事なことを確認する。 8. 学習を振り返り、手紙のよさについて話し合う。 * 相手や目的に合わせた手紙にするために、どんなことに気づけたか振り返る。	

2学期	9月	2	漢字の広場③ 送りがな 教科書:P110 △送り仮名は、漢字の読みや意味をはっきりさせるはたらきをもつことを理解し、漢字を正しく使う。 ☆学習用語:送りがな	漢字	1	1. 「強まる」「強める」を含む文を読み比べ、送り仮名の役割について考える。 2. P110下段の例示の言葉をいくつか使って短文を作り、友達と読み合い、適切に送り仮名を書いているかを確認合う。 3. P111上段の「書く」「読む」の()に送り仮名を書き、気づいたことを話し合う。	【知識・技能】 ◎漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打っている。(1)ウ) 【態度】 ・すすんで送り仮名の付け方を理解して、学習課題にそって、漢字を文や文章の中で正しく使おうとしている。
					2	4. 「だす・でる」「きる・つく」「けす・きえる」を、送り仮名に注意して漢字で書く。 5. 「育」などを、送り仮名の違いに気をつけて正しく読むようにする。	
2学期	9月	2 (書く2)	二年生で学んだ漢字③ 教科書:P112 △絵を見て想像したことをもとに、2年生で学んだ漢字などを使って文を書く。	漢字	3・4	6. 教科書の絵を見て、描かれている様子について説明する。 7. 「元気に走り回ってみようと思います。」を参考にして、外でやりたいことを文に書く。 8. 外でやりたいことについて、絵の中の言葉を三つ以上使い、二文以上が続く文章を書く。 9. 書いた文を見直し、適切な表現に変えたり、まちがいを正したりして、発表し合う。 10. 学習したことを振り返る。 * 送り仮名について正しく理解したり、漢字の使い方や表記などを理解できるようにしたりし、日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。	【知識・技能】 ◎前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。(1)エ) 【思考・判断・表現】 ○「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) 【言語活動例】 ・詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。(B(2)ウ) 【態度】 ・積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題にそって、教科書の絵の中の言葉を使って文を書こうとしている。
2学期	10月	9 (書く2)	七 題名について考えたことをつたえよう わすれられないおくりもの 教科書:P114 □題名について考えたことを伝え合う。 ★ここが大事:題名について考える ☆学習用語:文／訳／漢字／気持ち／手紙／題名／発表する／物語／様子／話し合う／場面／登場人物	読む	1	〈見通しをもとう〉 1. 単元扉を読んで、学習の見通しをもつ。	【知識・技能】 ◎主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。(1)カ) 【思考・判断・表現】 ○「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(C(1)エ) ◎「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C(1)オ)
					2・3	〈たしかめよう〉 2. 物語の全体をつかむ。 (1)題名からどのようなことを考えたか、自由に想像して自分の考えを発表するとともに、全文を読んで初発の感想を書く。 (2)森の動物たちのあなぐまとの思い出を、表に整理してまとめる。	【思考・判断・表現】 ○「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(C(1)エ) ◎「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C(1)オ)
					4・5	〈くわしくよう〉 3. 森の動物たちとあなぐまの気持ちを想像する。 (1)あなぐまが、どのような気持ちで森の動物たちにいろいろなことを教えてくれたのかを想像し、発表し合う。 * 物語の前半部分に、あなぐまの性格が語られている。その叙述をもとに、あなぐまとの思い出を想像させる。 (2)あなぐまが死んでしまった場面と、物語の終わりの場面で、もぐらの気持ちがどのように変化したかを考えて、発表し合う。 * あなぐまが死んでしまって、もぐらは、毛布をぐっしょり濡らすほど涙を流している。物語の最後の場面では、「ありがとう、あなぐまさん。」と、呼びかける姿に変わっている。もぐらはどのような気持ちに変化したのか、なぜそのように変化したのかを話し合わせるようにする。	【言語活動例】 ・詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。(C(2)イ) 【態度】 ・すすんで登場人物や気持ちについて考え、今までの学習を生かして物語の内容と結びつけて題名の意味を考えようとしている。
					6～8	〈まとめよう〉 4. 題名にある「わすれられないおくりもの」とは、森の動物たちにとってどのようなものか考え、ノートに書く。 * それぞれの動物たちの言葉を考えるだけではなく、森の動物たちみんなに対する「わすれられないおくりもの」とは何だったのかを考えさせる。 〈つたえあおう〉 5. 「わすれられないおくりもの」とはどのようなものだと思うか、友達と発表し合う。	
					9	〈ふり返ろう〉 6. 学習を振り返る。 * 教科書P129「ここが大事」を確認し、物語の内容と題名は深く関わっていることを振り返らせる。 * 今までに学習してきた物語にはどのような題名がついていたかを振り返り、題名のもつ意味について考えさせる。	
2学期	10月	4 (書く1)	言葉の文化① 俳句に親しむ 教科書:P130 △俳句を声に出して読み、言葉のリズムにふれる。 ☆学習用語:俳句／季語	文化	1	1. P130を読んで、学習の見通しをもつ。 * 俳句の特徴をつかみ、俳句を声に出して読み、言葉のリズムを感じたり、情景をイメージしたりすることをおさえる。 2. 俳句の特徴を知る。 * P130の児童の俳句をもとに、音数・季語・季節などを確かめる。	【知識・技能】 ◎易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。(3)ア) 【思考・判断・表現】 ○「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(B(1)ウ)
					2・3	3. それぞれの句を、解説を読みながら、季節の様子を想像して音読する。 * 写真などを手がかりにしながら、どんな情景なのかを頭の中に思い浮かべさせる。 * リズムや響きを感じ取ることを大事にしたい。 * 音読しての感想を、自由に言わせてもよい。	【言語活動例】 ・詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。(B(2)ウ) 【態度】 ・すすんで易しい文語調の俳句を音読したり暗唱したりするなどし、学習の見通しをもって言葉の響きやリズムに親しもうとしている。
					4	4. 気に入った俳句を覚えて暗唱し、発表する。 * リズムを意識しながら、何度も声に出して読んで覚えさせる。 5. 想像した句の情景や、その句を気に入った理由などをカードに書いて、発表し合う。 * 想像したことや理由が明確に述べられるよう促す。 * 他者に伝わる(共感してもらえる)ようになっているかどうか、確かめる。 6. 学習を振り返る。	

2学期	10月	1 (書く1)	言葉の文化② きせつの言葉を集めよう 教科書:P136 △俳句には「季語」が読み込まれていることや、「歳時記」の存在を踏まえ、春夏秋冬や新年に関するそれぞれの季語を集める。 ☆学習用語:季語	文化	1	1. 既習教材の『俳句に親しむ』から季語の性質や俳句の心地よい音の響きを想起する。 *「歳時記」に興味がもてるように説明をする。 2. 古人が詠んだ四つの俳句から季語や季節を考える。 *たくさんの児童が発言できるように促す。 *「かわず」のように、現代と違う表記の言葉について説明する。 3. 季節を表す言葉を集める目的を学級で話し合う。 *一人一人の「きせつの言葉ノート」などに集成しておいて、自分の「歳時記」をつくることに発展させることも考えられる。 4. 季節の言葉を集める。 *「歳時記」を使ったり、自分の経験を想起したりして季節を表す言葉を集められるようにする。 *学級で「クラス歳時記」や「歳時記かるた」などをつくることになったら、季節やテーマごとの役割を決める。 5. 振り返りをする。 *視点を明確にし、今日できるようになったことやこれから使えそうなことが書けるようにする。	【知識・技能】 ◎長い間使われてきたことわざや慣用語、故事成語などの意味を知り、使っている。((3)イ) 【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) 【言語活動例】 ・調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。(B(2)ア) 【態度】 ・積極的に、長い間使われてきた季節を表す言葉の意味を知り、学習課題にそって季節の言葉を集めようとしている。
2学期	10月	1 (話す聞く1)	ひろがる言葉 つながる ひろがる 教科書:P138 ◇上巻の国語学習を振り返ったり、これからの学習について考えたりして、すすんで学習できるようにする。	話聞	1	1. 半年間の国語の学習を振り返り、自分が学んできたことを書き出したり話し合ったりする。 *上巻の教科書、学習のノート、作成物、プリント類(ポートフォリオ)などから振り返ることができるようにする。挿絵や吹き出し、『三年生で学ぶこと』を参照する。楽しかったことを中心に思い出させたい。 *心に残っている単元や教材、学習活動、また、心に残っている言葉などを具体的にメモし、発表し合わせる。 *友達の発表を聞き、学んできたことを共有できるようにする。 2. 出し合ったことが、他の教科や生活の中で、どんなことに生かしていけるか考える。 *国語の学習がさまざまな生活の場面で生かされることに気づけるようにする。 3.下巻ではどんなことを学習するのか、想像したことや期待することなどを自由に発表し合う。	【知識・技能】 ○相手を見て話したり聞いたりしているとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。((1)イ) 【思考・判断・表現】 ◎「話すこと・聞くこと」において、目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。(A(1)ア) ○「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) 【言語活動例】 ・互いの考えを伝えるなどして、グループや学級全体で話し合う活動。(A(2)ウ) 【態度】 ・積極的に伝え合うために必要な事柄を選び、これまでの学習を生かして、上巻の教科書での国語の学習を振り返ったり下巻の教科書で学習することへの希望を話し合ったりしようとしている。
2学期	10月	2 (話す聞く2)	ー 文章を読んで、考えたことをまとめよう 世界の人のにつたわるように 教科書:P8 ◇身のまわりの絵について、どのような意味を表しているか、絵で表すことのよさについて話し合う。	話聞	1	〈見通しをもとう〉 1. 教材名を読み、世界の人に伝えるにはどのような方法があるか考える。 (1)地域にある看板や道路標識の絵について、学級で話し合うという見通しをもって、学習計画を立てる。 2. 地域にある看板や道路標識について話し合う。 (1)P8の看板や道路標識について話し合う。 (2)身のまわりの絵について調べる。 (3)調べたことを紹介する。 3. 次時の学習に向けて見通しをもつ。	【知識・技能】 ◎言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。((1)ア) 【思考・判断・表現】 ◎「話すこと・聞くこと」において、目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。(A(1)ア) 【言語活動例】 ・互いの考えを伝えるなどして、グループや学級全体で話し合う活動。(A(2)ウ) 【態度】 ・すすんで集めた材料を比較したり分類したりして、これまでの学習を生かして、身のまわりの絵について絵で表すことのよさについて話し合おうとしている。
					2	4. 調べてきたものを共有する。 5. 世界の道路標識について話し合う。 (1)世界の絵文字を見て、相違点を話し合う。 (2)絵文字を使うよさについて話し合う。 〈ふり返ろう〉 6. 学習を振り返る。 (1)学習全体を振り返り、できるようになったことや感想を確かめる。	

2学期	10月	7 (書く2)	一 文章を読んで、考えたことをまとめよう くらしと絵文字 教科書:P10 □段落のつながりに気をつけて文章を読み、絵文字を説明する文章を書く。 ★ここが大事:だんらくとだんらくのつながりから考える ☆学習用語:場面／役割／筆者／文章／要点／段落／説明する文章	読む	3 〈見通しをもとう〉 7. 教材名やいざないの言葉を読んで、学習内容を想像する。 (1)知っている絵文字を発表する。 * タブレット端末を活用し、実際に絵文字を見て確認しながら学習を進めていく。 (2)私たちの暮らしの中で、絵文字がどのように使われているのか考えて発表し合う。 (3)本時を振り返る。 4 〈たしかめよう〉 8. 本文の大体を捉える。 (1)本文にはどのようなことが書かれているか、短い言葉で表現する。 (2)本文を「はじめ」「中」「終わり」の三つの部分に分け、それぞれの見出しを考える。 * 学級の実態に応じて、「『はじめ』『中』『終わり』に分けてみよう。」と言うか、「全体を三つに分けてみよう。」と言うか、教師が判断するようにする。 5・6 〈くわしくよう〉 9. 絵文字の特長を詳しく読み取り、これからの絵文字の役割について考える。 (1)絵文字の三つの特長を読み取り、ノートに書き出す。 (2)これからの絵文字の役割について書かれている段落を読む。 (3)本時を振り返る。 7・8 〈まとめよう〉 10. 他の絵文字について、暮らしとのつながりを考えてまとめる。 (1)自分が説明する絵文字を選ぶ。 (2)本文の内容を参考にしながら、絵文字と暮らしとの関わりをカードにまとめる。 9 〈つたえあおう〉 11. 作成したカードをもとに発表し、友達の発表と比べて、共通点や相違点を見つける。 (1)友達と伝え合う。 (2)友達の発表と比較して、共通点や相違点を見つける。 (3)見つけたことを発表する。 〈ふり返ろう〉 12. 学習全体を振り返る。 (1)本文中のどの言葉を、自分の発表に生かしたのか発表する。 (2)絵文字の発表のときに気をつけたことをまとめる。
-----	-----	------------	--	----	--

【知識・技能】
◎主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。((1)カ)
◎考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。((2)ア)

【思考・判断・表現】
○「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(B(1)ウ)
◎「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C(1)オ)
○「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。(C(1)カ)

【言語活動例】
・調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。(B(2)ア)
・記録や報告などの文章を読み、文章の一部を引用して、分かったことや考えたことを説明したり、意見を述べたりする活動。(C(2)ア)

【態度】
・すすんで本文を読んで考えたことをまとめ、学習課題にそって、自分の考えを友達に伝えたり、友達の考えと比較したりして、思ったことを発表しようとしている。

2学期	11月	4 (話す聞く2)	言葉の広場④ 気持ちをつたえる話し方・聞き方 教科書:P28 △言葉にはいろいろな意味がこめられることを知り、気持ちが伝わる話し方・聞き方について考える。 ☆学習用語:話し手／聞き手	言語	1	1. 気持ちを伝えるための話し方・聞き方について学習することを知り、学習の見通しをもつ。 2. いろいろな気持ちをこめて「ケロケロ」と言い、どのような言い方をすると気持ちが伝わるかを考える。 * それぞれのかえるの気持ちをワークシートに書いて確認をしたあとに、どのような「ケロケロ」の言い方ができるのかを考えるとよい。	【知識・技能】 ◎言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。((1)ア) 【思考・判断・表現】 ◎「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えている。(A(1)イ) 【言語活動例】 ・互いの考えを伝えるなどして、グループや学級全体で話し合う活動。(A(2)ウ) 【態度】 ・すすんで、言葉には考えたことや思ったことを表すはたらきがあることに気づこうとし、見通しをもって、気持ちを伝えるための話し方・聞き方について考えようとしている。
					2	3. 自分が考えた他の気持ちを友達に「ケロケロ」で表し、何を伝えようとしているのか「あてっこゲーム」をし、どのような工夫をすれば伝わるのかについて話し合う。 * 話すときの表情や言い方(声の調子)、目線にも気持ちがこめられることに気づけるようにする。 4. 「へえ。」という言葉の言い方による違いについて考える。 5. 気持ちの伝え方と伝わり方について、どのようにすれば相手を傷つけずに自分の意思を伝えられるのかを考えて、「へえ。」を使った役割演技をする。 * 話すときの表情や言い方(声の調子・大きさ・速さなど)、目線にも意識を向けさせる。	
					3	6. 「消しゴムをかして。」の場面で、その返答について受け手はどう感じるのか体験する。 7. 気持ちのよいやりとりをするために、どのように返答をすればよいかを考える。 * 言葉だけでなく、表情や言い方、目線などの非言語要素にも目を向けて考えられるようにする。	
					4	8. 今日までのできごとを話題にして会話をを行い、四つの聞き方による「話しやすさ」の違いについて考える。 * 聞き手は教科書P31を参考にし、四つの聞き方をする。 9. 言葉だけでなく、話すときの声の調子や表情、姿勢、聞くときの聞き方や表情、うなずきなどでも、気持ちを伝えていることを確認する。 10. 学習を振り返る。	
2学期	11月	2	漢字の広場④ へんとつくり 教科書:P32 △へん、つくりなどの漢字の構成についての知識を得て、漢字を正しく読んだり書いたりする。 ☆学習用語:へん／つくり	漢字	1	1. 学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 * 本教材は、P82『漢字の組み立て』とセットとなっていることを踏まえておく。 2. カードに示されている漢字を組み合わせてできる漢字を考える。 3. P33を概観し、左右の組み合わせからなる漢字の左側の部分を「へん」、右側の部分を「つくり」と呼ぶことを知る。 4. P32の下段の設問に取り組み、気づいたことを話し合う。	【知識・技能】 ◎漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解している。((3)ウ) 【態度】 ・すすんで漢字がへんやつくりなどから構成されていることについて理解し、学習の見通しをもって、漢字を正しく読んだり書いたりしようとしている。
					2	5. 「きへん」「にんべん」「てへん」の名称を知り、字例、語例などをもとに、それらの意味を考え、話し合う。 6. 「おおがい」「ちから」「ぼくづくり」の名称と字例や語例を理解し、それらの意味を考え、話し合う。 * 本教材とP82『漢字の組み立て』に掲げられている程度の「偏旁冠脚垂繞構」とその呼び名・字例・語例を順次、教室に掲示していくとよい。 7. これまでに学習した漢字の中から、同じ「へん」や「つくり」がある字を探し、発表し合う。	
2学期	11月	2 (書く2)	二年生で学んだ漢字④ 教科書:P34 △絵を見て想像したことをもとに、2年生で学んだ漢字などを使って文を書く。	漢字	3・4	8. 教科書の絵を見て、描かれている様子について説明する。 9. 例文を参考にして、絵の中の言葉を使って、絵に描かれている様子を文に書く。 * 読み手が理解しやすいように伝えたいことを明確にして書くようはたらきかける。 10. 絵の中の言葉や漢字を使って、自分の教室の様子を、主語をはっきりさせて文に書く。 11. 書いた文を見直し、適切な表現にかえたり、まちがいを正したりして発表し合う。 * 敬体と常体が混在している場合は、どちらかに統一するようはたらきかける。 12. 学習したことを振り返る。	【知識・技能】 ◎前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。((1)エ) 【思考・判断・表現】 ○「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) 【言語活動例】 ・詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。(B(2)ウ) 【態度】 ・積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題にそって、教科書の絵の中の言葉を使って文を書こうとしている。

2学期	11月	8 (書く2)	三 登場人物のせいかくを考えながら読もう モチモチの木 教科書:P36 □登場人物の性格を考えながら読み、考えたことを伝え合う。 ★ここが大事:登場人物のせいかく ☆学習用語:物語／語り手／気持ち／中心人物／登場人物／場面の移り変わり／場面／主人公／会話／会話文／作	読む	1 〈見通しをもとう〉 1. 単元扉を読んで、学習の見通しをもつ。 〈たしかめよう〉 2. 全文を読んで主な登場人物を確かめ、その性格を考える。 (1)主な登場人物を確かめ、その中の中心人物は誰か考える。 * 登場人物の行動や会話に着目するとよいことを確認する。 2～4 (2)豆太を「おくびょう」だと言っているのは誰かを考える。 * 教科書P52のフクロウの言葉をヒントにして、語り手が言っているということに気づかせたい。 〈くわしくよう〉 3. 会話や行動をとおして、豆太の性格を考える。 (1)場面ごとに、豆太の性格がわかる会話や行動をノートに書き抜き、表のようにまとめる。 * 教科書P55「ここが大事」に着目させる。 * 表にまとめる際は、叙述を省略して引用させてもよい。 (2)その場面の豆太の性格について、自分の考えたことを表に書いてまとめ、発表し合う。 * 場面によって豆太の気持ちが変わり、行動に変化が見られる。行動と結びつけて、豆太の性格について捉えさせる。 5・6 〈まとめよう〉 4. 豆太の性格は変わったのかどうかを考え、自分の考えとその理由をノートに書く。 * 夜に一人でせっちんに行けない豆太が、物語の最後にも描かれていることから、「豆太は本当に変わったのか」という問いが生まれてくる。変わったと思うかどうか、理由もあわせて考えさせる。 7・8 〈つたえあおう〉 5. 豆太の性格について考え、考えたことを伝え合う。 * 自分の考えと友達の考えを比べて、豆太の性格とその変容について考えることで、物語のおもしろさに気づかせる。 〈ふり返ろう〉 6. 学習を振り返る。 (1)登場人物の性格を考えるとときに気をつけたことを振り返る。 (2)登場人物の性格について話し合ったことを通して感じたことを振り返る。	【知識・技能】 ◎様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。((1)オ) ◎幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。((3)オ) 【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(C(1)エ) ○「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C(1)オ) 【言語活動例】 ・詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。(C(2)イ) 【態度】 ・すすんで登場人物の会話や行動に着目して、登場人物の性格について考え、学習課題にそって、考えたことを伝え合おうとしている。
2学期	12月	6 (書く3)	読書の広場③ 「おすすめ図書カード」を作ろう 教科書:P56 ◇「おすすめ図書カード」を作り、本を紹介し合い、さまざまな本を読む。	読書	1・2 1. 「おすすめ図書カード」で本を紹介することを知り、紹介したい本を探して読む。 (1)カードを書いて本を紹介し合うという学習の見通しをもつ。 (2)紹介したい本を探して読む。 * 登場人物の気持ちの変化を考えたり、会話や行動から登場人物の性格を読み取ったりしていけるような作品を用意しておく。 3～5 2. 本のよさを見つけ、伝えたいことを明確にして、「おすすめ図書カード」を書く。 (1)カードに書く内容について話し合う。 * 本のよさを伝えるために、何を書いたらよいか、物語文での学習で学んだ読み方を想起させ、話し合わせる。 (2)(1)で考えたことに気をつけながら、紹介したい本を読み直し、気づいたことや感想をメモする。 (3)メモをもとに「おすすめ図書カード」を書く。 6 3. 友達の書いた「おすすめ図書カード」をもとに、興味をもった本を読む。 (1)友達の書いた「おすすめ図書カード」を見て、読みたい本を探して読み、カードのひと言感想を書く。 (2)学習や自分の読書について振り返り、感想を発表する。 * 本を紹介し合うことにより、新しい本に出会えることや感想を共有できることの楽しさを確認する。自分の読書生活を振り返らせ、読書の幅を広げていけるようにする。 * 本を読んだり、ひと言感想を書いたりする活動は、授業後も継続していきたい。	【知識・技能】 ◎幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。((3)オ) 【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C(1)オ) ◎「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。(C(1)カ) 【言語活動例】 ・調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。(B(2)ア) 【態度】 すすんで本を読んで、感想や考えをもち、学習課題にそって、本のよさが伝わる紹介文を書こうとしている。
2学期	12月	1	言葉の広場⑤ こそあど言葉 教科書:P60 △指示語のはたらきを理解し、適切に使う。 ☆学習用語:こそあど言葉	言語	1 1. 冒頭の会話文を通して、こそあど言葉とは何かを知る。 * 実際に指さしさせるなどして、こそあど言葉には物を指し示すはたらきがあり、言葉によって指し示す物などが異なることを実感させる。 * こそあど言葉の一覧表を見ながら、指し示す事柄や相手との関係によって言葉が変化することに気づかせる。 2. 実際の場面を想像しながら、設問1の空所に入るこそあど言葉を考える。 * 空所にこそあど言葉を入れながら、その言葉が何を指しているかや、話し手と聞き手との距離によって使い分けられていることを理解させる。 3. 教科書を読んで、こそあど言葉が話や文章の言葉や事柄を指すことを理解する。 * P61の設問に取り組み、こそあど言葉が文章中のどの言葉、どの部分を指し示しているのか考えさせる。 4. 学習を振り返る。 * こそあど言葉のはたらきや使い方に気づかせる。	【知識・技能】 ◎主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。((1)カ) 【態度】 ・すすんで指示する語句の役割を理解し、学習課題にそって、指示する語句を適切に使うとしている。

2学期	12月	5 (書く5)	心が動いたことを詩に書こう はっとしたことを詩に 教科書:P62 ■身近なこと、想像したことをもとに、表現を工夫して詩を書く。 ★ここが大事:詩を書く ☆学習用語:詩／漢字／詩を書く／たとえる／題名／繰り返す／言葉	書く	1 〈見通しをもとう〉 1. 教材名と二編の詩を読んで、学習のめあてを捉え、見通しをもつ。 * 児童がイメージをもてるよう、まずは教師がだんごむしの例のように、他の話題で最近のできごとや心が動いた瞬間などの話をする。 2. 生活の中のできごとを振り返る。 * 五月に書き始めた「発見ノート」や日記から、話題・題材を探させるとよい。 2・3 3. 二編の詩を読んで、書き表し方の工夫や表現の優れているところを見つけ、詩の書き表し方について理解を深める。 * 「心の動き」「題名の工夫」「たとえ」「繰り返し」「リズム」などについて読み取らせる。 4・5 4. 自分のまわりに目を向けて、はっとして何かを見つめ直したことをもとに詩を書く。 * 「学校のこと」「家庭のこと」「友達のこと」「観察したり経験したりしたこと」などから、強く心に残ったことを想起して、詩の題材を見つけさせる。 * 「なぜ、はっとしたのか」を明確に意識させて書かせる。 5. 書いた詩について交流する。 〈ふり返ろう〉 6. 題材の選び方や心の動きの表現の仕方など、今回の学習で学んだことを振り返る。	【知識・技能】 ◎言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。((1)ア) ◎様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。((1)オ) 【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) ○「書くこと」において、書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けている。B(1)オ) 【言語活動例】 ・詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。(B(2)ウ) 【態度】 ・積極的に書き表し方を工夫し、学習の見通しをもって詩を書こうとしている。
2学期	12月	4 (書く1)	言葉の文化③ ことわざ・慣用句 教科書:P64 △ことわざや慣用句の意味を知り、ふだんの生活の中で使うことができるように、カードを作る。 ☆学習用語:慣用句／ことわざ／伝える	文化	1・2 1. 教材文を読んで、知っていることわざや慣用句について話し合う。 * 「ことわざ」と「慣用句」という用語を知り、それらがどのように生活の中で使われてきたのかを考えさせる。 2. ことわざや慣用句の意味を、辞典を使って調べる。 * 一人一冊国語辞典を用意しておく。学校図書館のことわざ辞典も準備する。 * 現在では、いわゆる差別表現に相当する用法があることに留意する必要がある。 3. 調べた意味をノートにまとめる。 3 4. ことわざや慣用句を集めて、カードにまとめる。 * ことわざや慣用句が使われる場面を考えて、場面や目的に合ったことわざや慣用句を使って文を作らせる。 * 使いたいことわざや慣用句の意味を辞典で調べさせる。 * 使う場面を考え、状況のわかる短文や対話例を作らせるなど工夫する。 * ことわざや慣用句が正しく使われているか、友達やグループ内で確かめ合ったり、助言し合ったりするよう促す。 4 5. 作った文を発表し、交流する。 * ことわざや慣用句の意味を確認したり、自分たちが考えた場面に適した使われ方になっているかどうか、確かめたりさせる。 * 同じことわざや慣用句を選んでも、使い方は多岐にわたることに気づかせる。 * ことわざや慣用句の意味をあてさせるクイズをするなどの活動に広げてもよい。	【知識・技能】 ◎長い間使われてきたことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使っている。((3)イ) 【思考・判断・表現】 ○「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) 【言語活動例】 ・調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。(B(2)ア) 【態度】 ・積極的に、長い間使われてきたことわざや慣用句の意味を知り、学習の見通しをもってカードにまとめようとしている。
3学期	1月	2	詩を読もう 夕日がせなかをおしてくる／いちばんぼし 教科書:P70 □音読したり、イメージを広げたりして、詩の世界を楽しむ。 ☆学習用語:詩／様子／音読	読む	1 1. 詩の題名「夕日がせなかをおしてくる」について、気づいたことを話し合う。 * 今まで学習した詩では名詞の題名が多かったが、文の形の題名であることに気づくように支援する。 2. 詩の表現する世界や様子がよく伝わるように、一人読みやグループ読み、一斉読みなど、工夫しながら音読をする。 * 音読を繰り返しながら、繰り返し(リフレイン)などの表現技法に自然と気づくようにさせる。 * 各連の後半四行を、「太陽」と「ぼくら」に分かれて呼びかけ合うことも考えられる。 2 3. 詩の題名「いちばんぼし」について、気づいたことを話し合う。 (1)「いちばんぼし」を見た体験を発表する。 (2)「いちばんぼし」が出る空の様子などを想像する。 4. グループで詩『いちばんぼし』の世界について感想交流をしてから、どのように音読したいかを話し合う。 * 「宇宙の目」と目が合ったら、どんなことを話しかけてくるか、どんな挨拶をするかなど、自由に想像するように助言する。 5. グループごとに音読方法を工夫して、発表する。	【知識・技能】 ◎文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。((1)ク) 【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像している。(C(1)エ) 【言語活動例】 ・詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。(C(2)イ) 【態度】 ・すすんで情景について具体的に想像し、学習の見通しをもって、音読したりイメージを広げたりしようとしている。

3学期	1月	7 (話す聞く7)	四 調べたことをしりょうにまとめて発表しよう ちいきの行事 教科書:P74 ◇地域の行事について、本や動画、インタビューなどで調べ、資料を使って発表する。 ★ここが大事:しりょうを使って発表する ☆学習用語:資料／発表する／インタビュー／パンフレット／取材／質問する／メモ／組み立て／説明／聞き手／順序	話聞	1 〈見通しをもとう〉 1. 単元名とリード文を読み、学習の見通しをもつ。 (1)地域の行事について、グループで調べたことを資料にまとめ、発表するという学習の見通しをもって、「学習の進め方」をもとに学習計画を立てる。 * 自分たちの町や地域の行事についての関心を高める資料を事前に用意し、関心を高める導入にする。	【知識・技能】 ◎相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。((1)イ) ◎比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使っている。((2)イ) 【思考・判断・表現】 ◎「話すこと・聞くこと」において、話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫している。(A(1)ウ) ○「話すこと・聞くこと」において、必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもっている。(A(1)エ) 【言語活動例】 ・質問するなどして情報を集めたり、それらを発表したりする活動。(A(2)イ) 【態度】 ・すすんで話の中心を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫し、学習課題にそって、地域の行事について資料を使って発表しようとしている。
					2 〈決めよう・集めよう〉 2. 調べたいことを決めて、詳しく調べる。 (1)グループで調べたい地域の主な行事を決める。 * イメージマップなどを活用し、考えを広げさせるようにする。	
					3 (2)地域の行事について調べる。 * P75の「インタビューをするとき」を確認する。 * 本・ちらし・パンフレット、ウェブサイト・動画、インタビューなどさまざまな方法で調べられるようにする。 * 調査やインタビューの相手先には、教師が段取りをつけておく。児童だけで行ける範囲でも、安全の配慮を十分にする。写真撮影や録音については相手の許可を得るなど、取材のマナーなどについても指導する。 * 他教科とも関連させるとよい。	
					4 〈組み立てよう〉 3. 発表計画表を作り、発表の組み立てを考える。 (1)調べてわかったことを確かめ、発表計画表を作る。 * 発表に使う資料を選び、どのように使うかを考えさせる。	
					5 (2)発表台本を作成し、発表計画表をもとに練習する。 * P77の「発表するとき」を確認する。 * P79の「大事な言い方」を確認し、意識させる。 * 資料の見せ方や動画を流すタイミングを考えさせ、発表に生かせるようにする。 * 機器の操作や資料提示などの役割分担もさせるとよい。	
					6 〈話そう・聞こう〉 4. 資料を使って発表する。 (1)資料を使ってわかりやすく話したり、大事なところをメモを取りながら聞き合ったりする。 * P79の「ここが大事」を確認し、意識して発表会を行う。	
					7 〈つたえ合おう〉 5. 発表を聞いて感想を伝え合う。 (1)聞き手に伝わる発表にするために、資料を使うとき、どんな工夫をしたかを伝え合う。 * 児童の感想の中から、資料を使うときに大切なことを板書き、整理する。 〈ふり返ろう〉 6. 学習を振り返る。 (1)学習全体を振り返り、できるようになったことや感想を確かめる。 * 全体で話したり聞いたりして、学習の自己評価をさせる。 * 聞き手に伝わる発表にするために、資料を使うとき、どんな工夫をしたかを振り返らせる。	
3学期	1月	2	言葉の広場⑥ 文の組み立て 教科書:P80 △主語と述語や修飾語との関係を理解して、文の組み立てを捉える。 ☆学習用語:主語／述語／修飾語	言語	1 1. 冒頭の会話文を読んで、主語と述語だけでは文意が不明確な場合があることに気づく。 * 修飾語を明示することで文意が明確になることを意識させる。 2. 教科書を読み、主語と述語による四つの文型を確認する。 * 既習の三文型の他に「なにがーある／ない」の文型があることを知らせる。 3. 修飾語の形とはたらきを理解する。 * 主語と述語の他に「～を」「～に」などの修飾語も加わって文が組み立てられることがあることをおさえる。	【知識・技能】 ◎主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。((1)カ) 【態度】 ・すすんで主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係について理解し、学習の見通しをもって、文の組み立てを捉えようとしている。
					2 4. P81下段の設問に取り組み、文の組み立てを図で表すことをとおして、主語と述語の他にさまざまな修飾語によって文が組み立てられていることを理解する。 5. 主語・述語・修飾語を含む文を作る。 6. 学習を振り返る。	
3学期	1月	2	漢字の広場⑤ 漢字の組み立て 教科書:P82 △かんむり・あしなどの漢字の構成について理解し、漢字を正しく読んだり書いたりする。 ☆学習用語:へん／つくり／あし／かまえ／かんむり／たれ／によ	漢字	1 1. 学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 2. カードに示されている漢字を組み合わせてできる漢字を考える。 * カードは、どれも漢字の一部分であることに気づかせる。 3. P83を概観し、「かんむり」「あし」「たれ」「によ」「かまえ」などと呼ぶものがあることを知る。	【知識・技能】 ◎漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解している。((3)ウ) 【態度】 ・すすんで漢字がへんやつくりなどから構成されていることについて理解し、学習の見通しをもって、漢字を正しく読んだり書いたりしようとしている。
					2 4. 「くさかんむり」の漢字は、何に関係のある意味をもっているかを話し合う。 * 組み立てを考え、漢字を上下の二つの部分に分けることができるようになることに重点を置きたい。 5. 「笛」を例に、「通・宮・原・図・雪・間」の組み立てを考え、話し合う。 6. これまでに学んだ漢字から、二つの部分に分けられるものを選び出し、それがどのような組み立てとなっているかを話し合う。 * 巻末『漢字を学ぼう』を参考に選ぶとよい。	

3学期	1月	2 (書く2)	二年生で学んだ漢字⑤ 教科書:P84 △絵を見て想像したことをもとに、2年生で学んだ漢字などを使って文を書く。	漢字	3・4	7. 教科書の絵を見て、描かれている様子について説明する。 * 描かれている人物と行為、場や時間の状況、物品など、視点を提示するとわかりやすい。 8. 例文を参考にして、絵の中の言葉を使って、絵に描かれている部屋の様子を説明する二文以上が続く文を書く。 9. 絵の中の言葉を三つ以上使って、二文以上が続く文章を書く。 * 続きの文を書くために接続語を提示してもよい。 10. 書いた文を見直し、適切な表現にかえたり、まちがいを正したりして、発表し合う。 11. 学習したことを振り返る。	【知識・技能】 ◎前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。(1)エ) 【思考・判断・表現】 ○「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) 【言語活動例】 ・詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。(B(2)ウ) 【態度】 ・積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題にそって、教科書の絵の中の言葉を使って文を書こうとしている。
3学期	2月	7 (書く2)	五 文章と図や写真を、むすびつけて読もう 川をつなぐちえ 教科書:P86 □段落のつながりに気をつけながら写真と文章を結びつけて読み、考えたことをまとめる。 ★ここが大事: 図と文章をむすびつける ☆学習用語: 筋道／説明する／作／訳／話題	読む	1	〈見通しをもとう〉 1. 教材名や写真、いざないの言葉を読んで、本文の内容を想像し、学習の見通しをもつ。 (1)写真を見てわかることや、想像したことを発表する。 (2)教材名やいざないの言葉と関連づけて、本文の内容を想像する。 (3)学習の手引きを読み、単元の学習の見通しをもつ。	【知識・技能】 ◎主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。(1)カ) ◎考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。(2)ア) 【思考・判断・表現】 ○「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) ◎「読むこと」において、段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えている。(C(1)ア) ○「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C(1)オ) 【言語活動例】 ・調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。(B(2)ア) ・記録や報告などの文章を読み、文章の一部を引用して、分かったことや考えたことを説明したり、意見を述べたりする活動。(C(2)ア) 【態度】 ・すすんで段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述をもとに捉え、学習課題にそって、自分の考えを明確にして友達に伝えようとしている。
					2	〈たしかめよう〉 2. 本文の大体を捉えたり、文章構成を確認したりする。 (1)範読を聞いて、文章の大体を理解する。 (2)本文の文章構成を確認する。 (3)問いに対する答えを説明するために使われている図について話し合う。 * 「ここが大事」を確認し、図と文章のつながりを捉えることをおさえる。	
					3・4	〈くわしくよう〉 3. 船が川をわたる知恵について、段落ごとに要点をまとめる。 (1)文章構成を確認する。 (2)「始め」と「終わり」を読み取る。 (3)「中」の部分について、図や写真と本文を結びつけながら、段落ごとに表にまとめる。 * (3)の活動は、第3時の後半から第4時に行う。	
					5	〈まとめよう〉 4. 川をつなぐ知恵について、自分の考えを明確にする。 (1)見沼通船堀を考えた人たちの知恵について、読み取ったことを振り返る。 (2)その知恵について、自分の考えをノートにまとめる。 * 本文にある図や、読む際に使用した掲示物を示し、これまでの学習を想起しやすくするとよい。	
					6・7	〈つたえあおう〉 5. 自分の考えを友達と伝え合い、互いの考えのよさを語り合う。 (1)自分の考えを友達に伝える。 (2)友達の考えを聞いて、まとめ方や感想の内容について、気づいたことを伝え合う。 * グループで伝え合ったり、全体で交流したりするなど、実態に応じて場の設定を工夫するとよい。 〈ふり返ろう〉 6. 学習全体を振り返る。 (1)段落ごとにまとめるときに気をつけた言葉を発表する。 (2)文章と図や写真を結びつけて読むよさについて、考えたことを発表する。 * 本単元の振り返りをするだけでなく、今回の学びを次の学習にどう生かしたいかを見通せる場にするるとよい。	
3学期	2月	1	言葉の文化④ 十二支と月のよび名 教科書:P96 △暮らしの中に今なお使われている昔からの言い方について知り、さまざまな言葉を探して感じたことを書く。 ☆学習用語: 十二支／月のよび名／方角	文化	1	1. 昔から使われている言い方について、自分たちが知っているものをあげる。 * 昔の言葉が調べられる本や、昔の言葉が出てくる本を用意し、手に取れるようにしておく。 2. 教科書を読み、月や干支の昔の言い方やその意味を知る。 * 今年の干支や、自分たちの生まれた年の干支を想起させ、課題意識をもたせる。 * 干支の由来にまつわる民話などを語り聞かせてもよい。 3. 月の呼び名について知っていることを出し合い、教科書で確認する。 4. 知っている昔の言葉や新たに知りたいことを調べ、ノートに書く。 * 教材文を読んで、暮らしに残る昔からの言葉やその由来について興味をもたせ、どのような場面(カレンダー、古謡の歌詞など)で使われているか探させる。 5. 調べたことを友達と共有したり比べたりする。	【知識・技能】 ◎長い間使われてきたことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使っている。(3)イ) 【態度】 ・積極的に、長い間使われてきた十二支や月の呼び名を知り、学習の見通しをもって、今の暮らしの中に残る昔からの言い方を見つけようとしている。

3学期	2月	8 (書く8)	六 つたえたいことの中心を明らかにして書こう 強く心にのこっていることを 教科書:P98 ■身近な生活の中から自分に合った題材を見つけ、段落相互の関係を考えながら、中心になる場面をはっきりさせて文章を書く。 ★ここが大事: 中心場面の様子や気持ちをくわしく書く／文章を読み返す ☆学習用語: 場面／伝える／漢字／気持ち／組み立て表／中心場面／始め／本文／様子／中／終わり／読み返す／題名／会話文／会話／直し方／文／意見	書く	1	〈見通しをもとう〉 1. 教材名や本文、「学習の進め方」を読み、見通しをもって、題材を集める。	【知識・技能】 ◎様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。((1)オ) ◎考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。((2)ア) 【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) ◎「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認めたりして、文や文章を整えている。(B(1)エ) ○「書くこと」において、書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けている。(B(1)オ) 【言語活動例】 ・調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。(B(2)ア) 【態度】 ・粘り強くまちがいを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認めたりして文や文章を整え、学習の見通しをもって、思い出に残っているできごとについて文章を書こうとしている。
					2・3	〈決めよう・集めよう〉 2. できごとを一つ選び、詳しく思い出す。 * イメージマップを作って、友達といちばん伝えたい場面について考えさせる。	
					4	〈組み立てよう〉 3. 中心場面を考えながら、組み立て表を作る。 * 「その時の様子や気持ち」をできるだけあげさせる。特に中心場面をより具体的に思い起こさせる。	
					5・6	〈書こう〉 4. 組み立て表を生かして、文章を書く。 * 原稿用紙の使い方を確認してから書かせる。	
					7	〈読み返そう〉 5. 中心場面の様子や気持ちが相手に伝わるかどうか、読み返す。 * 「ここが大事」の観点に即して、読み返させる。 * 協同推敲として、お互いの下書きを読み合う活動に取り組みさせることで、「中」の部分をより詳しくさせる。	
3学期	2月	2	漢字の広場⑥ 二つの漢字の組み合わせ 教科書:P104 △漢字二字の言葉の構成について、問題を解きながら確認し、二つの漢字のつながり方を考える。	漢字	1	1. 学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 2. 「鉄橋」「岩石」を例に、上と下の言葉のつながりをもとに、漢字二字の組み合わせを考える。 * 漢字の組み合わせ方(つながり方)を考え、その言葉のおおよその意味を推測できるようにする。 3. 「深海」を例に、「漢字二字の言葉」の読み方と意味を考え、それぞれのつながり方について話し合う。	【知識・技能】 ◎前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。((1)エ) 【態度】 ・積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題にそって、漢字二字の言葉の構成について考えようとしている。
					2	4. 「田畑」を例に、関係のある漢字を組み合わせてできた言葉を考え、国語辞典で意味を確認める。 * 提示の漢字と関係があると思われる漢字を選び出して、組み合わせた言葉が確かなものなのかどうかを、国語辞典で確認できるようにする。 5. 「軽重」を例に、反対の意味になる漢字を組み合わせてできた言葉を作る。 6. 「川岸」「白酒」のように連濁する言葉を集めてノートに書き、発表する。	
3学期	2月	2 (書く2)	二年生で学んだ漢字⑥ 教科書:P106 △絵を見て想像したことをもとに、2年生で学んだ漢字などを使って文を書く。	漢字	3・4	7. 教科書の絵を見て、書かれている様子について説明する。 * 絵の中にある2年生で学習した漢字の読み方を確認する。 8. 例文を参考にして、絵の中の言葉を使って、絵に描かれている町の様子を文に書く。 9. 絵の中の言葉や傍線の漢字を使い、「くわしくする言葉」(修飾語)を加えて町の様子を文に書く。 * 主語と述語の他に修飾語を使って書くようにする。 10. 書いた文を見直し、適切な表現にかえたり、まちがいを正したりして、発表し合う。 11. 学習を振り返る。	【知識・技能】 ◎前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。((1)エ) 【思考・判断・表現】 ○「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認めたりして、文や文章を整えている。(B(1)エ) 【言語活動例】 ・詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。(B(2)ウ) 【態度】 ・積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題にそって、教科書の絵の中の言葉を使って文を書こうとしている。

3学期	3月	10 (書く2)	七 登場人物について考えたことを手紙にしよう おにたのぼうし 教科書:P108 □登場人物の気持ちの変化を考えて読み、考えたことを手紙にして書く。 ★ここが大事:場面のうつりかわりと登場人物の変化から考える ☆学習用語:文／漢字／物語／登場人物／発表／終わりの場面／始めの場面／性格／話し合う／様子や気持ち／手紙／言葉／登場人物の変化／場面の移り変わり／最後の場面／場面／物語の内容／作	読む	1 〈見通しをもとう〉 1. 単元扉を読んで、学習の見通しをもつ。 * 登場人物の気持ちの変化を考えて読み、考えたことをおにたへの手紙にして書くという学習の見通しをもたせる。 〈たしかめよう〉 2. 中心人物のおにたについて、考えをもつ。 (1)主な登場人物を確かめる。 * 登場人物とそれぞれの関係を確認しておく。 (2)中心人物のおにたについて、最初の場面から想像できるおにたの性格を考える。 * 『モチモチの木』の学習を生かして、おにたの行動や会話に着目して考えさせる。	【知識・技能】 ◎様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。((1)オ) 【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C(1)オ) ◎「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。(C(1)カ) 【言語活動例】 ・詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。(C(2)イ)
					2～8 〈くわしくよう〉 3. 物語を読んで、おにたの気持ちの変化を想像する。 (1)まこと君の家にいるときのおにたと、女の子の家を見てからのおにたの様子を比べて、どんな違いがあるか話し合う。 * 様子の違いやせりふの違いがわかるところに線を引いて考えさせる。 (2)おにたが、女の子の前から急にいなくなった、きっかけとなったところはどこかを考え、その時のおにたの気持ちを想像する。 * 様子の違いやせりふの違いがわかるところに線を引いて考えさせる。 * P122の「言葉」は、学習活動の中で適宜取り扱う。 〈まとめよう〉 4. おにたの性格や気持ちの移り変わりをもとに、女の子の前からいなくなったおにたについて考える。 (1)おにたは、なぜ「角かくしのぼうし」を残して、女の子の前からいなくなってしまったのかを考え、自分の考えをノートに書く。 * P123「ここが大事」を確認する。 * おにたにとって、角かくしのぼうしには、どのような意味があるのかを考えさせる。そのうえで、角かくしのぼうしを残していなくなってしまったおにたの思いを想像させる。	【態度】 ・すすんで登場人物の気持ちの変化について考え、学習課題にそって、考えたことをもとにしておにたに手紙を書き、友達と伝え合おうとしている。
					9・10 〈つたえあおう〉 5. いなくなったおにたに宛てて手紙を書き、友達と読み合う。 (1)おにたがいなくなってしまったことについて、思ったことをノートにメモし、発表する。 * 「どこかへ行ってしまった」と考えるか、「豆になった」と考えるかによって、手紙の内容が変わるかもしれない。いずれにしても、なくなったおにたについてそれぞれの立場で感想をもち、その立場に基づいて手紙を書かせる。 (2)読んで思ったことを、おにたへの手紙にして書き、友達と読み合う。 * 最初の場面からおにたが消えてしまった場面まで、もう一度おにたについて思いをめぐらせる。 * 「どうして、……なのですか。」のような質問形式ではなく、自分なりに想像して書くようにさせる。 〈ふり返ろう〉 6. 学習を振り返る。 (1)登場人物に手紙を書くときに気をつけたことを振り返る。 (2)友達と手紙を読み合って、気づいたことを伝え合う。	
3	3月	2 (話す聞く・書く1)	ひろがる言葉 これまで これから 教科書:P124 ■一年間の国語学習を振り返ったり、これからの学習について考えたりして、すすんで学習できるようにする。	書く	1・2 1. 一年間の国語の学習を振り返る。 * 上・下巻の教科書、学習のノート、作成物、プリント類(ポートフォリオ)などから振り返ることができるようにする。 * 挿絵やふきだし、『三年生で学ぶこと』を参照させる。 * 楽しかったことを中心に思い出させる。 2. 自分が学んできたことを書き出したり話し合ったりする。 * 心に残っている単元や教材、学習活動、言葉などを具体的にメモさせる。 * 友達の発表を共感して聞き、学んできたことを共有できるようにする。 3. 四年生になったら、2で出し合ったことがどのように広がっていくのか想像したり希望を出し合ったりする。 * 四年生になって「またやってみたい活動」「もっと読んだり書いたりしてみたいこと」「取り組んでみたい活動」など、いろいろな観点で話し合わせる。	【知識・技能】 ○相手を見て話したり聞いたりしているとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。((1)イ) 【思考・判断・表現】 ○「話すこと・聞くこと」において、目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。(A(1)ア) ◎「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) 【言語活動例】 ・質問するなどして情報を集めたり、それらを発表したりする活動。(A(2)イ) ・互いの考えを伝えるなどして、グループや学級全体で話し合う活動。(A(2)ウ) 【態度】 ・積極的に伝え合うために必要な事柄を選び、今までの学習を生かして、一年間の国語の学習を振り返ったり次学年への希望を話し合ったりしようとしている。